

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2015

5月

No.119



6月1日は
『善意の日』

地域福祉の貴重な財源
善意銀行

特集
P.2・3



ひ孫と
いっしょ

山崎町 岸田 シリーズ118

藤田 房代さん(91歳)

○果朋ちゃん(7歳)

○空琉くん(4歳)

藤田 裕也さん・円さん

■長女・長男



善意の日パレード(千種支部 2014.6.1)

6月1日は
『善意の日』

地域福祉の貴重な財源

善意銀行

今年も6月1日「善意の日」が近づいてきました。

善意銀行はこの善意の日と共に生まれて半世紀。地域福祉を進める貴重な財源ですが、近年、その預託金が減少してきています。

今月号では、善意銀行預託金について新たな提案を致します。

合併10年で
740万円減少

6月1日は善意の日です。

今年も皆様に自治会長様を通じて「善意銀行への預託」をお願いする募金袋をお届けします。ので格別のご協力をよろしくお願い致します。

さて、この「善意銀行」ですが、地域にとつてはとても貴重なお金です。それは、社協が進める地域福祉活動の財源としてなくてはならない財源であるからです。

しかし、この善意銀行の預託金が最近減少してきています。これは地域にとつても社

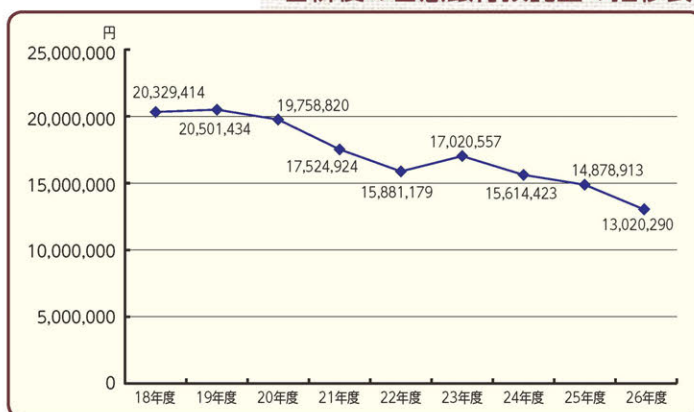
協にとつても大問題です。合併した当初の平成18年度は年間2,000万円の預託がありました。平成26年度は、1,300万円あまりの預託額となり、約10年で740万円減少しました。

減少要因は？

この預託金減少の要因は、葬儀のあと「故人の供養のために」とか「快気祝いとして」などの理由で預託いただく機会が減少したことが大きいのではないかと考えられます。

「故人の供養のために」という預託は、合併前の旧町こ

合併後の善意銀行預託金の推移表



とに「生活改善」の一環として連合自治会や婦人会等で「葬儀のあり方」や「香料返しはしない」ということの申し合わせがなされ、その取り組みの中で「香料返しはせずにいくらかのお金を故人の供養として善意銀行へ預託しよう」ということが話し合われました。以来この取り組みが長年継続されてきました。

平成27年度穴粟市善意銀行の事業計画(予算)

主な事業内容	金額(円)
地域福祉の推進に ・小地域福祉活動 ・子育て支援活動 ・介護者の会など当事者支援活動 ・支部かわら版の作成 ・ボランティア市民活動センターの運営 など	7,206,000
ボランティア連絡会、ボランティアグループへの助成に	2,160,000
福祉関係団体(5団体)への助成に	530,000
ひとり暮らし高齢者等への配食サービス事業に	3,211,000
くらしや福祉、介護等に関する総合相談事業に	85,000
認知症高齢者等の生活を支援する福祉サービス利用 援助事業に	335,000
家屋火災時の見舞金や大規模災害発生時の支援金として	100,000
善意の日の啓発事業および善意銀行運営経費として	173,000
計	13,800,000

提案 生活改善で あらためて香料返しの廃止を

しかし、ちょうど合併前後、約10年前から葬儀の形態が「自宅葬」から「会館葬」に変わっていき、中で、「香料返しはしない」という申し合わせを受付等で掲示されていても、場合によっては香料返しが行われていることがあります。また、「町内の申し合わせ」も合併している中で「市内全域の申し

合わせ」へと広がっていく状況にはなっていない。

このような状況を踏まえ、社協では、あらためて合併前の申し合わせを思い起こし、今日の時点にたつて、「生活改善のために葬儀の折には市内全域で香料返しをしない」という申し合わせを行うことを提案します。そして、香料返しに代えて善意銀行への預託をお願いします。また、同時に、病気やケガのお見舞いに対するお返しについても、見舞い返しの習慣を改めなおし、その経費を有効に活用する方法として善意銀行へ預託いただくことをお願いします。

生活改善は「お互い様」の考えから

こうした取り組みは、「お互い様」の考えから出発しています。日本社会では、「お返し」の習慣は独自のもので、時代とともに発展してきました。しかし、物質的に豊かになった今日では、それは価値観的に「無駄」とも取れるものになってきています。この

の考えから

無駄を省いていくのが生活改善であり、それは「お互い様」の考えから出発するものです。

「お返しをやめて善意銀行へ預託する運動」をあらためて提案し、お礼状にその旨を記載いただくことはいかがでしょうか。



配食サービスはボランティアと善意銀行で(一宮の配食ボランティアのみなさん)

地域福祉を進める 大切な財源

善意銀行は、昨年度13、020、290円の預託をいただき、その全額を社協が進める地域福祉活動(配食サービス、移送サービス、ボランティアグループへの助成金、子育て支援活動、福祉団体への助成など)の財源として有効に活用しています。(写真参照)

情けは人の為ならず

また、善意銀行に2、000円以上の預託をいただくと寄付金控除の対象となり、「所得控除」と「税額控除」の選択ができる優遇措置があります。

「情けは人の為ならず」ということわざがあります。これは、社会や地域のために役立つことをしていると、やがては、その善意は自分に帰ってくるという意味です。まさに善意銀行への預託はこの言葉そのものです。地域の福祉は自分の幸せにつながります。ぜひとも善意銀行への預託をお願いします。

(本部 山本正幸)

や

まさき

気軽に集える憩いの場

コミュニティハウス青い家



きれいな青色と広い庭が目印

青い家（山崎町高下）がオープンして、この4月で一年を迎えました。

菅野地区に、誰

もが気軽に寄れて交流ができる場所を作りたいと空き家を借りて活動がスタートし、現在は近所の方の協力も増え、スタッフ13人で運営されています。

4月26日（日）、この日は『春の青い家マーケット』が開催され、フリーマーケットや模擬店には、ご近所の方やボランティアグループが出店し、子ども和太鼓が会場を盛り上げるなど、300人を超える参加者で賑わいました。

青い家では、こうしたイベ



マジックショーやお寿司屋さんによる魚の解体ショーもあり「こんな場所が地域にあってうれしいわ」と参加者のみなさん(青い家)

ントや毎日営業の喫茶を中心に、習い事等の会場の貸館や、独身男女の出会いの場「フレンドパーク」を定期的に開催するなど、住民同士の交流の輪が広がっています。

「気軽に寄ってもらえる雰囲気」を大切に、今後は地域の職人さんをゲストに招いた教室をさらに充実させたい」と、代表の小沼経子さん。

こうした地域に活力を与え『地域（まち）づくり』にもつながっている取り組みが、長く続くよう願っています。

（山崎支部 森井裕矢）

い

ちのみや

新緑と晴天の中

気持ちよく

天理教のみなさんが清掃ボランティア

4月29日（水）、午後一時から地元の天理教のみなさんによる奉仕作業が一宮保健福祉センターやすらぎで行われ、子どもから高齢者まで約50人が参加しました。

当日は天候にも恵まれ、約2時間で同所周辺の土羽や花壇などが本当に美しくきれいになりました。

この奉仕作業は、今回で4回目。毎年この時期に実施いただいています。

奉仕作業をされた天理教神戸分教会の森下陽伸会長さんは「たくさんの方が利用されている大切な施設ですので、少しでもきれいにさせていただきたいので、毎年みなさんに呼びかけ、ご奉仕させていただいています」と作業の趣旨をお話しいただきました。

同センターは、周辺が土羽で囲まれており、毎月1回は草刈りや草ひき作業が必要です。奉仕作業は天理教のみなさん



少しでもきれいにしよう!楽しく奉仕作業（一宮保健センター やすらぎ）

んのほかにも年間を通じ、シルバー人材センター会員や伊和高校生など多くの方にお世話になっています。

みなさんのボランティア活動により同センターの環境がよりよい形で保たれており感謝しています。

天理教の皆様、今年もありがとうございました。

（本部・一宮支部 山本正幸）

や・い・は・ち トピックス

日頃からのつながりを大切に

有賀福祉委員の活動

有賀福祉連絡会では、福祉委員活動の一環として、昨年4月2回、自分の隣保の高齢者世帯に声かけを行う訪問活動に取り組まれています。

4月14日(火)、福祉委員さんの訪問に同行させていただくと「畑もええがいしとってやね。最近調子はどないや」と、何気ない会話から日頃の様子や体調の変化なども気づかわれていました。

訪問先には、元気な方も多くありますが、「将来のためにも日頃からつながりを作っておこう」という思いで、定期的な活動を大切にされています。

「見守りは地域みんなです。近所でのゴミ出しのお手伝いも、見守りや声かけのひとつやしね。」と代表福

祉委員の勝部主税さん。

隣保単位の定期的な声かけが行われることで、日頃から福祉委員に見守られているという安心感が生まれ、信頼関係もさらに深めています。

見守りや声かけの仕組みづくりは、いつまでも安心して暮らせる地域づくりの一步です。

(波賀支部 平有利菜)



福祉委員さんが訪問されると、農作業の途中で雨宿りをされているところでした(有賀自治会)

「地域みなさん見守ってくださいね」

千種小学校 下校放送

千種小学校では、昨年2学期より集団下校時に、毎日1人通信で児童2人が、その日の出来事などについて感想を伝え、下校時のお願いをしています。

4月16日(木)の当番は、6年生の住江尚紀さんと春名琴音さん。この日は、ファミリー班の顔合わせがありました。住江君は「班の子たちと仲良くなれるよう頑張ります」春

名さんは「私たちの班の目あては、『喧嘩せず仲良くみんなで遊ぶ』で、班長なので、引っ張っていきたくです」と放送しました。

同校の浅田卓教頭は、学校での様子を伝えることで、地域の人たちの目が少しでも児童に届き、安心安全につながればと期待されています。

最後に「私たちは、今から



運動場では、集団下校のため、児童が整列中。職員室の電話を利用し、町内に放送されます(千種小学校)

全校集会をして帰ります。地域みなさん見守って下さいね」と放送を締めくくり、集団下校しました。

通学路をよく散歩される地域の方は、「子どもの声が聞けることは嬉しいで。学校の雰囲気がよく伝わってくるよ」と、下校を見守っておられます。

この放送をきっかけに、学校への関心が深まり、地域でも気軽に声かけできる見守りにつながれると思います。

(千種支部 山本めぐみ)

※ファミリー班とは、1年から6年が仲良くするための、掃除・遊び・運動会などのたてわり活動班

はが

ちくさ

読者の感想より

今はまだ大丈夫だと自負して車を運転していますが、ヒヤッとすることもあります。「安全うんてん・安心うんてん」を心がけようと思います。(山崎町 女性)

こどもホームステイ事業60周年記念フォーラム

宍粟郡及び宍粟市において昭和30年から続くこどもホームステイ事業が今年で60年を迎えます。

これを記念してこれまでの事業の振り返りと今後さらに継続した取り組みになるようフォーラムを行い、

児童養護施設で生活するこどもたちの実情や
取り巻く環境について学びます。

みなさんぜひご参加ください。

昨年度歓送迎式「園長の「たくさん甘えた人？」の質問に手を挙げるこどもたち



日時 6月14日(日)
午後1時30分～4時
会場 一宮保健福祉センター

- ・記念フォーラム 「すべての子どもたちの幸せづくりのために」～子どもの貧困を考える～
○パネラー 児童養護施設代表、こども家庭センター、(社)家庭養護促進協会
- ・ホームステイ体験者からホストファミリーへ「ありがとうメッセージ」の発表

ホストファミリー募集! 7月24日(金)～28日(火)の4泊5日

今年も姫路市、たつの市の児童養護施設のこどもたちが夏休みに宍粟へ遊びに来ます。

あたたかい家庭の雰囲気を感じ、宍粟での楽しい思い出がたくさんできるよう、こどもたちの受け入れにご協力いただけるホストファミリーを募集します。

▲お問合せ:各支部

「ボランティアの日」のお知らせ

6月の善意推進月間にちなみ、誰もが参加できる「ボランティアの日」を下記のとおり行います。

日ごろボランティアの機会がないという方も、ぜひご参加ください。



昨年、千種清掃活動の様子

山崎 6月3日(水) 10:00～11:30
山崎町内の清掃活動

一宮 6月17日(水) 9:30～11:00
まどか園(車椅子の清掃)
はりま自立の家(施設内清掃)

波賀 6月6日(土) 13:30～16:00
しろう自立の家オープンデーのお手伝い
(喫茶、手作り品の販売手伝いなど)

千種 6月6日(土) 9:00～11:00
千種町内の清掃活動

▲お問合せ:各支部

新任職員紹介



山崎支部
コミュニティワーカー
機谷 昌吾

私は、生きていることの喜びを地域の皆様に伝えたくて社協に入りました。

車イスで生活をしている私にとっては、何もかもが新鮮に感じられ、いろんな面で戸惑うこともしばしばありますが、新たな人生のスタートラインに立てたことに感謝し、社協の業務を通して笑顔あふれる宍粟市にしていきたいと思っています。

そして、私と同じように身体に障がいのある方も健康な方も「宍粟市に住んで良かった」と思ってもらえるよう、まだまだ未熟ですが地域の皆様のお手伝いができるよう、努力していきますので宜しくお願い致します。